

厚生労働科学研究における研究成果のアウトカム評価の指標及び手法の開発に関する研究

(平成27年度厚生労働科学特別研究事業 研究代表者 浜松医科大学 教授 尾島俊之)

第93回 科学技術部会

平成27年12月11日

資料 2

研究の背景

厚生労働科学研究費の評価方法において、下記の課題等があり、今後の適正な評価方法の確立が必要になった。

- 厚生労働科学研究の評価において、発表論文数、施策への反映数等の「アウトプット」の評価にとどまっている。
- 厚生労働科学研究の「アウトカム」（行政的側面、学術的側面等）を表す指標及びその測定方法が確立していない。

研究目的

- 1 厚生労働科学研究における研究成果の**アウトカム**（国民の健康、社会等に及ぼす効果）の**指標及び手法の開発**
- 2 **研究成果を総合的かつ長期的に評価する仕組み**（PDCAサイクル）の検討

研究方法

1. 研究成果の行政施策への活用状況に関する**実態調査**

- ① 行政施策への反映、又は検討する上で活用した等の研究課題について質問紙調査【11月30日まで】
- ② ①から行政施策へのインパクトの大きい研究課題を選定し、詳細な背景を行政担当者に個別、フォーカスグループインタビュー【12月14日～予定】

2 厚生労働科学研究の**アウトカム評価の設定方法の検討**

各研究事業に係る研究者及び学識研究者等へのインタビュー
【12月～1月を予定】

3 研究成果のアウトカムの**評価方法の検討**

- ① 厚生労働科学研究の学術的、社会的インパクト、行政施策への活用状況調査
 - ② 他分野以外での行政評価の手法や事例の検討
- 【11月～2月実施】

4 **諸外国の実態調査**

諸外国（米国等）における健康関連研究開発のアウトカム評価に関する実態調査
【1月下旬～2月上旬を予定】

厚労科研費の研究成果のアウトカムの指標の検討【3月上旬】

研究成果

- 厚生労働科学研究課題評価の適正な運用の枠組みの構築（「厚生労働省の科学研究開発評価に関する指針」へ反映）
- アウトカムを基準とした、事前評価（インプット）、中間評価（プロセス）、事後評価（アウトプット）の妥当性の検証
- 申請課題の内容から、期待される研究成果を予測する手法の確立（モデル、シミュレーション）
- アウトカムを含めた研究課題評価の体系の整備、科学的根拠に基づく厚生労働科学研究の推進方策の確立

※ 科学技術部会で報告【5月予定】